

## 非文字資料研究センター 新刊のご紹介

### 非文字資料研究 25号



- 2022年9月30日刊行
- 内容
- 田山暦の分類と比較  
—— 絵暦から読み解く生業と信仰 —— 太田原潤
- 中国の租界地と使館界における演劇活動  
—— 晩清民初を中心に —— 吉川良和
- 地域住民の視点からみた青海省チベット牧畜地区における  
伝統的な生態意識と環境破壊の原因  
—— 生態移民政策の現状に焦点を当てて —— 彭毛夏措  
加羊
- こどものためのあかりミュージアム  
「あんどん皿と花鳥風月」 廣瀬由子
- 江戸末期～明治期華僑関連絵画集成稿 中林広一

### 編集後記

第49号をお送りします。今号には別冊として、「戦時下日本の国策紙芝居研究」班編集による特別号が制作されています。さまざまな地域での紙芝居調査を基にしたものです。合わせてお読みください。

今号の最後の中村裕史氏の報告の冒頭にあるように、非文字資料研究が何をやる学問なのか分からない、という声はよく聞くとこです。センターの紹介活動の苦勞がしのばれる報告でしたが、さまざまな調査の現場を報告することによってそれを伝えていくことが最初の一步であり、News Letterの意義の一つです。今号では、地元・横浜の運河めぐりから、熊本、釜山、サハリン、インドネシア、ポーランド、ブラジルまで、多様な地域に見られる人類の「非文字」的な営為に注目するという活動が紹介できていればと願います。また地域の広がりとともに、歴史の深みに降りていくような記録やアーカイブの試みについても、ぜひご注目ください。

次号は節目となる第50号となり、非文字資料研究の来し方を振り返りながら、これからの展開を考える特集を企画しております。ご期待ください。  
(熊谷謙介)

### 表紙紹介

#### 表紙の図「堀井本店に火が回る図」について

本図は、堀井謄写版堂本店が関東大震災で焼失する様子を色刷り謄写版で表したものである。堀井謄写版堂は日清戦争時の1894年に神田鍛冶町三番地に店を構え、その後成功した著名な謄写版機器の商店であったが、震災で鍛冶町の本店とその倉庫、及び近辺の今川町、松下町の倉庫も焼失した。これらの倉庫から運び出した在庫品を抱えて二回、三回と避難した様子を詳しく語る震災受難記をガリ版で表した。震災から2年後の大正15年(1926年)復興の目処が立った時期に本編を記し、謄写版色刷りの図版15点などを添えて、関係先に配布にしたものと推定される。表紙に掲げた「堀井本店に火が回る図」は、巻末の美濃版和紙色刷り謄写版15枚のうちの1点である。謄写版堂自体に関わるものは、震災から約1ヶ月後の「本店焼跡ト急造セル第一回応急バラック」の図の2点に限られる。その他は、地震発生時の11時58分を示す中央気象台の時計の図や、宮城二重橋前広場の避難民など、いずれも当時写真で出回った震災光景をなぞったものがほとんどを占める。

旧地の神田鍛冶町の現在地には、「堀井ビル」という名のビルの一角に銅板のレリーフが残るのみであるが、出身地の滋賀県東近江市には、堀井本家を改修した「ガリ版伝承館」(東近江市蒲生岡本663)が建てられている。(北原糸子)

## 『非文字資料研究』への寄稿について

人類文化の研究は、人間それ自身と人間が織り成す社会を研究することを目的とするが、その研究は文字で表現された資料を主な対象として行われてきた。しかし、人間の活動とその結果生み出されるものは、文字で記録されたものに止まらない。絵画・写真・映画・建築・民具・音声などの形で記録されたり、地形や景観あるいは人間の身体それ自身に刻み込まれたりもする。さらに、匂い・しぐさ・味覚・感触など「記録化」することが難しいものも、人類文化を構成する大事な要素である。

非文字資料研究センターは、そのような文字以外の記録及び文字では表現されにくい人間の諸活動を「非文字資料」として体系化し、それを研究する新しい方法を開発し、より包括的な人間と文化の理解にいたることを目指している。21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003－2007年度）以来、わたしどもは、その目的を達成するために〈画像〉〈身体技法〉〈環境・景観〉のなかから研究課題を絞り込み、共同研究を展開してきた。この共同研究は、歴史学・民俗学はもとより、文化人類学、比較文化論、美術史、建築史、災害史、情報科学などを専門とする内外の研究者によって支えられてきた。

このように多様な学問的広がりをもつ非文字資料は、世界各国の地域文化の諸相を具体的かつ可視的に示す絶好の資料であるとともに、資料自体が多層的な時代・地域において蓄積されてきた背景をもっているため、研究方法としても比較歴史的な視点を求めるものであり、ひいては、人類文化研究の総合的・学際的な発展の可能性を有している。

しかし、研究資料の分析指標の設定、意味の解釈という困難な作業には、研究概念と成果の普遍性が求められる。また世界共通の標準的・普遍的な研究資料の資料化・体系化を行うには、世界各地の関連学問分野の研究者による相互検証が不可欠である。本センターの研究活動においても、関係研究者との共同作業を必要としている。

『非文字資料研究』は、世界の各地域において活躍されている非文字資料研究者からの寄稿を歓迎し、本誌が多分野にわたる研究者相互の学問的遭遇の場として発展するとともに、人類文化の豊かな研究に寄与することを期待する。

寄稿をご希望の方は、当センターのホームページをご覧ください。執筆要項等の詳細をご確認ください。

エントリー募集期間：前期 1月～3月 後期 7月～9月

原稿締め切り：前期 3月末 後期 9月末

※原稿ご提出後、査読があります。

エントリー用紙：当センターのホームページよりダウンロードしてください。

執筆要項：当センターのホームページよりご確認ください。

表記・書式細目：当センターのホームページよりご確認ください。

エントリーシートの提出・お問い合わせ先：非文字資料研究センター

E-mail: [himoji-info@kanagawa-u.ac.jp](mailto:himoji-info@kanagawa-u.ac.jp)

ホームページ：<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

## 非文字資料研究センター News Letter No.49

発行日 2023年3月20日発行

編集・発行 神奈川大学 非文字資料研究センター

日本常民文化研究所  
Research Center for Nonwritten Cultural Materials,  
Institute for the Study of Japanese Folk Culture, Kanagawa University  
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

■Tel.045-481-5661 ■Fax.045-491-0659 ■URL <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

